

ピアノレッスンを通しての幼児の音楽理解

浅見 英夫

(平成4年10月1日受理)

The Musical Understanding Acquired by Small Children through Piano Lessons

Hideo ASAMI

(Received October 1, 1992)

はじめに

全く音楽的に白紙の幼児達に音楽を理解させるために何が必要であるだろうか。表現したり、創作する場合に簡単な理論的知識が必要である。彼等は理論的な制約なしでも音楽を楽しみ、彼等の自覚なしに自然に音楽らしきものを表現している場合もある。しかし、絵画のように何かを描けば、それなりに面白いものが出来るとは考えられない。音価の理解がある程度なされた後にリズムも生まれるし、メロディも創りだすことが出来るであろう。ピアノのグループレッスンを通し実践してみたい。

1. 対象幼児

東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園年長クラス、年長クラス35名の中でピアノ、オルガン等の音楽のレッスンを受けた経験のない者の中から希望者を募った。男児は11名の希望者があり3名を抽選で選び、女児は希望者3名全員を対象とした。

2. 実施時期

1990年5月9日より1991年2月27日までの毎水曜日で保育終了後11時30分より12時までの30分間。但し夏休み、冬休み、その他幼稚園の行事日等は除き全25回である。

3. 実施場所及び教材

東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園の保育室を使用。教材としてはJane Smisor Bastien著の「The Very Young Pianist」1巻、2巻、「Listens and Creates」児童学科音楽第2研究室

を使用、使用した楽器等はアップライトピアノ1台。各人に紙鍵盤、えんぴつ、クレヨンを準備した。

4. 教材の内容

「The Very Young Pianist」1巻、2巻の使用した部分のみを述べる。

1. 右手、左手の区別

右手、左手をあげさせる。

2. 指の番号

数字の見分け。右手、左手の指定された指を動かす。右手、左手の絵に指定された色のクレヨンでぬる。

3. 鍵盤の理解

中央の音から高い音、低い音の理解。すべての黒鍵を3つのグループと2つのグループに分け考え、低音域から高音域へと弾く。

4. 音名の読み、書きと鍵盤の関係

AからFまでの音名としての文字の区別。その後A、B、Cまでの音を低音域から高音域までのすべてを弾く。後にE、F、Gと広げていく。

5. 音価の理解

始めに4分音符、2分音符を理解させる。次に2つの8分音符、付点2分音符、全音符と広げていく。図1では原書版と翻訳版からの抜粋を示す。

6. 音符の音価と指の番号による短い曲の練習

「ハロウィーン」、「Cちょうのうた」、「しちめんちょうのおじさん」、「かもつれっしゃ」(図2)、「ゆきだるま」、「パーティ」、「アップルパイ」、「なわとび」、「Gちょうのうた」

7. Iの和音の理解

C調、G調のIの和音を左手、右手の順に弾く。短い

Two Eighth Notes 2つの8分音符	Count: Two eighths 2 8, Two eighths 2 8, Two eighths 2 8, Two eighths 2 8			
Quarter Note 4分音符	Quarter しーぶん	Quarter しーぶん	Quarter しーぶん	Quarter しーぶん
Half Note 2分音符	Half 2ーぶん	Note おんぶ	H-half 2ぶん	Note おんぶ
Dotted Half Note 付点 2分音符	Half 2ーぶん	Note おんぶ	Dot ふてん	Quarter しーぶん
Whole Note 全音符	Hold ぜん	that おんぶ	Whole のぼ	Note そう

タ タ	タ タ タ タ	タ タ タ タ	タ タ タ タ
タン	タン	タン	タン
ターアン	ター	アン	ター アン
ターアータン	ター	アー	アン タン
ターアーアン	ター	アー	アー アン

図1 Counting Note Values (おんぶのながさ)

みぎて Cちょう
ひだりて 2つのくろいキー

みぎて ひだりて

みぎて ひだりて

図2 かもつれっしゃ

曲のメロディに左手でIの和音を付ける。

8. 「ジングル ベル」, 「せいじゃがまちにやってくる」を弾く。

「ジングル ベル」にはIの和音を, 「せいじゃがまちにやってくる」(図3)にはI, V₇の和音を付ける。

Cちょう

みぎて

ひだりて

みぎて

ひだりて

図3 せいじゃがまちにやってくる

9. 鍵盤上のシャープとフラット

鍵盤図に示されたシャープとフラットをシャープは元の音の右隣の音として, 又, フラットは元の音の左隣の音として理解させる。

「Listens and Creates」1巻で使用した部分について述べる。

1. たかい音とひくい音

木の上の小鳥と池の中のかえるがセットになった絵があり, 教師の弾く曲が高音域の音の場合は小鳥を青色でぬり, 低音域の音の場合はかえるを緑色でぬる。

2. 音符の種類の間き分け

2つの8分音符と2分音符, 4分音符と2分音符, 2つの8分音符をセットにして, いずれの音符を使ったりリズムかを聞き分ける。

3. おなじ音とちがう音

同じ2つの絵と異った2つの絵をセットにして短い曲を2曲聞かせる。2曲が同じである場合は前者の絵をぬり, 異っている場合は後者の絵をぬる。

5. 考察

今回使用したテキストの対象となる子供の年齢は4才から7才であると原作者Jane Bastienは述べているが、対象園児6名は開始時5才から6才であった。筆者はこのテキストを個人レッスンで使用した経験を持つが、今回はグループレッスンで、各個人の事前準備なしで、どの位の理解が得られるかを確かめてみた。通常、音楽のレッスンにはレッスン前後の練習が要求されるが、今回は週1回だけのレッスンとして、保育室の中での遊びの中で行った。テキスト「Very Young Pianist」, 「Listens and creates」はそれぞれ3巻から成り、日本語に翻訳されている。今回は各回が短いレッスンではあり、第2巻の5線上の音符まで進ませることを想定していたが、2巻に入る所までで終了した。前項IVの教材の内容に従って番号順に考察を加えていく。

1. 右手、左手の理解はすでに出来ていた。
2. 指の番号は右、左の感覚が異なるため、やゝ混乱したが、両手を合わせ同じ番号の指を同時に動かす方法で理解させた。指の絵にクレヨンで各指に色をぬることは興味を示した。
3. A, B, Cのアルファベットには興味を持ったが、鍵盤上の音名として置きかえると理解しにくかった。音名としてA, B, Cを使う時、Aの鍵盤の位置さえ困難であった。このテキストが米国のものであり、米国の子供達には自然であるA, B, Cも日本の子供には取っ付きにくいようである。我国では音楽の勉強を始める以前でさえ、ド, レ, ミの音名の方が親しみやすいことがわかる。
4. 鍵盤の場所で2つの黒鍵と3つの黒鍵のグループに分け、視覚的に理解させ、各人に全部の黒鍵にさわらせることにより鍵盤全体に親しませることが出来た。
5. 5種類の音符の理解させるため、音符の名称を言いながら手打ちと振りによって行う。2つの8分音符は2, 8と云いながら2つ打ち、4分音符は4ふんと云いながら1つ打ち、2分音符は2ふんと云いながら1つ打ち、おんぶと云いながら音を出さないで丸くおさめる。付点2分音符は2ふんと云いながら1つ打ち、おんぶで音なしで振り、ふてんで音なしで丸くおさめる。2分音符が先に見え、付点が後に見えるのでこの順序で行う。全音符はぜんと云いながら1つ打ち、おんぶ、のぼと云いながら各々振り、そうで音なしで丸くおさめる。打つこと

は簡単に出来たが、次に振ることが難しかった。打った後の振りに入る前に胸の方に寄せてきて振るとわかりやすかった。

6. 指の番号と音符の長さだけで楽曲を奏する方法であるが、短い曲は出来るが、少し長い曲になると繰り返し練習する必要がある、短時間でのグループレッスンでは1曲を通して弾くことが難しかった。

7. Iの和音で1, 3, 5(左手は5, 3, 1)の指だけを確実に弾くことは困難であった。2, 4の指の下にえんぴつを挟む方法で効果が上がった。しかし、この方法だけに興味を示す子供がいた。

8. 21回目(12月19日)のレッスン時に、前述の5種類の音符カードを各々数枚ずつ与え、各人の好きなリズムを配列させた。出来上がった配列を1枚の紙に貼りリズム打ち、次にピアノでのリズム弾き、最後に5指の位置内で高低をつけて弾かせた。各人のリズム配列(図4)、高低をつけて弾いたものを採譜したもの(図5)を示す。Y男とK子のものがやゝ曲らしい体裁を整えている。

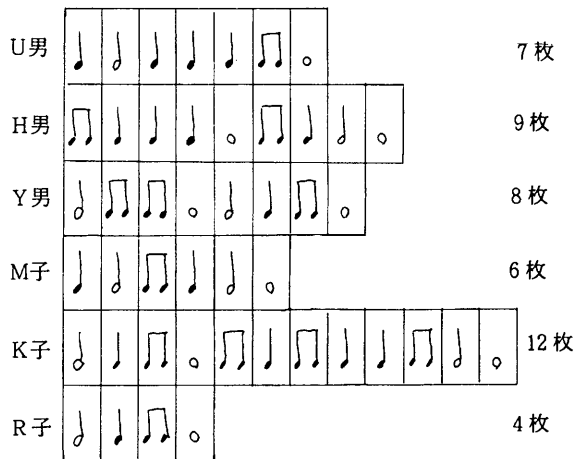


図4 各人のリズム配列

9. 25回のグループレッスン終了後、1991年3月4日に音楽心理研究所の音研式幼児音楽適性診断テストを行った。年長児クラス31名中30名が受験したがグループレッスンの幼児達の結果は次の通りである。

	U男	H男	Y男	M子	K子	R子
強弱	4	4	4	4	4	4
リズム	3	2	1	1	2	2



図5 各人の演奏採譜

高低	3	3	3	2	2	4
音色	4	4	4	4	4	4
和音	3	3	2	3	3	3
鑑賞	4	4	3	3	4	4
評価合計	21	20	17	17	19	21
音楽能力段階	4	3	3	3	3	4

クラス全体の音楽能力段階をみると4段階16名(53.3%)、3段階10名(33.3%)、2段階4名(13.3%)であり、今回レッスンを行った幼児達は4段階2名、3段階4名と特に目立った傾向はみられなかった。

おわりに

今回の試みは水曜日の保育後の11時30分からの30分間であり、良い状態の時間設定ではなかった。出来れば週2回に分けて行うべきであった。又、行事、夏休み等のブランクで中断されてしまったのは残念であった。紙鍵盤の使用は音が出ないため、興味が半減した。何らかの形で楽器を各人に準備するの必要を感じた。

音名についてはテキスト通りA、B、Cで行ったが、ドレミの方が自然に耳に入っていたのであろう。音楽的経験の少いため、A、B、Cもドレミも大差ないと想定していたが、やはりドレミの方が親しみやすいようであ

る。A、B、Cの使用は調名を勉強するためには有益であるが、A、B、Cとドレミの併用の方が個人レッスンの経験からも効果があると思われる。テキストの中で8分の6拍子も入っていたが、今回は複雑になるので省略した。

年長者のためのピアノ入門書としてJames Bsstienの著で筆者の訳した「The Older Beginner Piano Course」があり、数年前から全学講座でピアノに初めてふれる学生達のグループレッスンを行っているが、内容的には今回使用したテキストと大体同じである。学生の場合90分の授業で14回位であるが、最後には小曲を弾くことが出来るようになる。テキストの進度も異なるし、時間も異なるが、学生の2回分位と今回のレッスン25回分と同じ内容になってしまう。理解力、その他経験の差でありやむをえない。幼児達に5線以上に出てくる音符の読みまで導くことが出来なかったのは残念である。しかし音楽レッスンの経験のなかった幼児達に何らかのきっかけを与えることが出来たと思う。幼児の音楽教育を進めるための貴重な体験であった。

最後に筆者と共に遊びながら音楽の勉強をしてくれた幼児達6名とレッスンの補助をして頂いた助手の井戸裕子、松本尚子の両氏に感謝したい。

参考文献

- 1) Jane Smisor Bastien : 「The Very Young Pianist Book 1. Book 2, General Words & Music Co. Neil A. Kjos Jr. Publishers (San Diego, CA)
- 2) ジェーン S. バスティーン「ちいさなピアニスト」第1巻、第2巻、General Words & Music Co. Neil A. Kjos Jr. Publishers (San Diego, CA) 1977
- 3) Jane Smisor Bastien : 「Listens and Creates」Book 1. Book 2, General Words & Music Co. Neil A. Kjos Jr. Publishers (San Diego CA.)
- 4) ジェーン S. バスティーン : 「聴音と創作」第1巻、第2巻、General Words & Music Co. Neil A. Kjos Jr. Publishers (San Diego CA.)

ピアノレッスンを通しての幼児の音楽理解

Summary

I wanted to know how infants understand music.

It needs some musical theory to create music. I gave some piano lessons to six kindergarten children who had no experience to take any musical lessons. Text was “Very Young Pianist” written by Jane Smisor Bastien. It leads infants to the beginning of music by easy method.

The last time, six students arranged some cards of notes and played the piano their arrangements of notes. Some of them were creative music without five lines.